

PMT

冷凍倉庫対応ロボット

日本食品市場中心に 導入目指す

仏ロボットメーカー i Follow 社の国内総代理店となるピーエムテイー(PMT)は、冷凍環境対応 AMR「iLogistics」の国内販売を開始した。

iLogistics は約170センチの低床のロボットを生かし、さまざまなタイプのパレットやカゴ台車をリフトアップして搬送できる自動搬送ロボット。保管から搬

送まで積み替えなしの省力メリットが欧州市場で話題を呼び、導入実績は600台超。近年は仏大手物流会社GXOがドレイ現場で45台導入した。AMRをはじめ、自律協働型ロボットなど、さまざまなロボットが物流現場で活躍する現在、PMTがターゲットとするのが冷凍倉庫だ。オプシ

国内初というマイナス30℃の冷凍環境での稼働が可能となり、ほかのロボットと差別化を図る。独自温度帯で結露の心配がなく、冷凍・冷蔵・常温域の3温度帯にまたがったエリアでの自動搬送も可能。上限温度は40℃、最大搬送荷重は300・600・1000キログラムの3種をラインアップし、AC100V充電時間は3時間以内、最大稼働時

間は16時間。

PMTではiLogistics活用シーンとして、出入庫、所定ロケーションの自動搬送のほ

か、作業員が常駐するピッキングステーションなどでカゴ車を搬送するGTP(Person)も提案。

不足問題の解決策としても有効だ。

iLogistics は現在、日本国内での冷凍現場環境で実証を重ねている段階だ。同社は半

食品をはじめ

めとした冷凍現場など、過酷な環境でのロボット化は潜在需要が高い。長時間作業が困難な場所の自動化や24時間365日(自動充電時間除く)の稼働で、2024年問題や国内の労働力

iLogistics

めとした冷凍現場など、過酷な環境でのロボット化は潜在需要が高い。長時間作業が困難な場所の自動化や24時間365日(自動充電時間除く)の稼働で、2024年問題や国内の労働力不足問題の解決策として有効だ。iLogistics は現在、日本国内での冷凍現場環境で実証を重ねている段階だ。同社は半導体・エレクトロニクスの分野の超精密部品などの加工・切削などのノウハウを生かし、スタックや台車専用スロープなど、ユーザーの仕様環境に合わせたアタッチメントや周辺機器のカスタマイズも請け負う。同社はクロスソリューションプロバイダーを標榜、技術と技術、人と人を掛け合わせるソリューション提供を目指す。

